



気温35度を超えると猛暑日とよばれますが
近頃の夏は 猛暑日が珍しいことではなくなってきました。
カラダを動かすことによって体温が上昇する
スポーツなどの活動時だけでなく
日々の暮らしや働くときからカラダが涼しく感じる
仕様・機能が夏の衣服には必要なくなってきました。
いかに涼をえるか。

その答えは日本の住まいで
古来より使われている道具にありました。
竹や葦などを編んでつくられる「すだれ（簾）」です。
編んだ竹や葦の隙間から風を通して室内に風をとりこみ
夏の強い陽射しがもたらす紫外線をさえぎりやわらげます。
わたしたちが快適かつ健康的に活動をするために
日本古来の住まいの道具「すだれ」は
気流や紫外線といった熱環境要素をうまく味方につけています。

陽をよけて風をカラダへと通して自然の涼をえる
日本の気候にあわせて住まいに根づく道具「すだれ」に
ならい高通気ファブリック「爽多」ができました。

爽多
風を喰み 陽をよけん



風を喰み 陽をよけん

爽多

すだれから発想した高通気性ファブリック

TAフロンティア株式会社

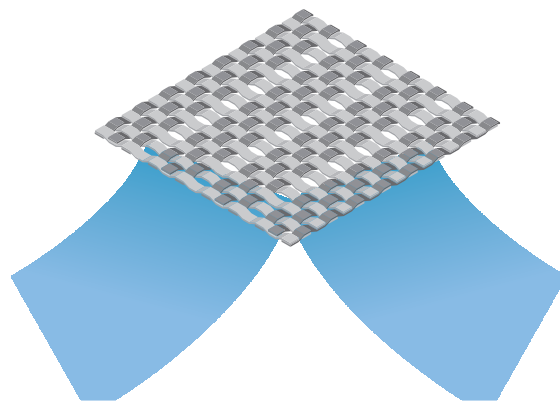
TEIJIN

特徴

織物生地は、経糸（たていと）と緯糸（よこいと）が交互に織り交ぜられて、直角に交差することで生地の基本構造が成り立っています。

構造体設計技術・糸の技術・生地の加工技術を組み合わせることで、簾（すだれ）のように風を通しつつ紫外線 (UV) を遮る素材が生まれました。

簾のような高い通気性とUVを遮る生地を纏う。爽多は、まさに「簾を着ることができれば」という想いから生まれました。



BREATHABLE

涼感をうみだす高通気性

通気度 $50\text{cm}^3/(\text{cm}^2 \cdot \text{s})$ 以上 *JIS L 1096 A法 準拠



UV PROTECTION

紫外線を和らげる UV カット

紫外線遮断率 85% 以上 *JIS L 1925 準拠

＜すだれ構造の強み＞



「すだれ」は、日本の伝統的な日除けや仕切りとして、古くから細く割った葦や竹を糸で編み重ねて作られてきました。この語源は「簀（す）」と「垂れ（だれ）」に由来し、「簀」は割り竹を並べて編んだものを指します。すだれの機能は多岐にわたり、日よけ、プライバシーの保護、虫除けとしての実用性に富んでおり、その歴史は「万葉集」にも言及されるほど古く、奈良時代の住居には既に取り入れられていました。また、すだれと同様の概念は中東のイスラム建築にもあり、木製の鮮やかな格子窓「マシュラビーヤ」にも見られます。